

グループブックトークをやってみよう

ブックトークとは、あるテーマにそって数冊の本をストーリー仕立てで紹介する取り組みです。ここでは、三人以上のグループを組み、一人一冊ずつ、リレー方式で本を紹介する「グループブックトーク」を実践してみよう。

グループブックトークの作り方

隣どうしのクラスでグループブックトークの交流をしましょう。

1. グループで話し合い、テーマを決めます。

テーマの例：友達、季節（春、夏、秋、冬）、星、動物、食、怖いもの、色、冒険

2. 学校図書館に行き、テーマに関連した本をみんなで協力して探します。

▼ポイント

- ★ 物語だけでなく、絵本、科学に関する本、写真集など、いろいろな本を紹介できるよう工夫しよう。本選びで困ったときは、図書館の先生に相談しよう。
- ★ 自分が自信をもってお薦めできる本を紹介しよう。これまでに読んできた本、友達に薦められておもしろかった本などから選んでもよいでしょう。

3. 自分が紹介する本のシナリオを書きましょう。

▼ポイント

- ★ 自分が紹介する本の魅力が伝わるよう工夫しましょう。あらすじを紹介するだけでなく、登場人物のことを話したり、本の中身にコメントを加えながら紹介したり、さわりの部分を朗読したりするのもよいでしょう。
- ★ 聞き手に質問をしたり、本の内容に関するクイズをしたりするなど、楽しんでブックトークを聞くことのできる工夫も取り入れましょう。
- ★ シナリオがうまく書けないときは、もう一度本をじっくり読んでみましょう
- ★ シナリオが完成したら、図書館の先生にアドバイスをいただきましょう。

4. どのような順番で本を紹介するか、グループで話し合います。

▼ポイント

- ★ 紹介する順番が決まったら、本と本との間をつなぐ言葉を考えます。
例：「次は○○さんが、……な本を紹介します。」
- 例：「この本は……がテーマでしたが、次に○○さんが紹介するのは、……がおもしろい絵本です。」
- ★ 始めの言葉、結びの言葉もあわせて考えましょう。

5. 発表のリハーサルをしよう。

▼ポイント

- ★本を紹介するときには表紙を見せ、タイトルを言いましょ。
- ★声の大きさ、話す速さ、間のとり方に気をつけて、練習しましょ。
- ★本の持ち方、見せ方、めくり方にも気を配りましょ。他のグループと合同で練習し、改善点をアドバイスし合うとよいでしょ。

グループブックトークの例(テーマ:不思議なもの)



始めの言葉

私たちのグループのブックトークのテーマは、「不思議なもの」です。皆さんも「あれって、なぜこうなっているんだろっ?」「こんなことが現実になったらどうなるの?」と思ったことはありませんか。今日は本の世界をおとして、皆さんに不思議な世界、不思議なものを紹介しようと思います。



一冊め:早川いくを『へんな生きものへんな生き物』

私が紹介するのは、『へんな生きものへんな生き物』です。この本には、見慣れない変な生き物がたくさん載っています。例えば、(実際のページを見せる)この生き物は何だと思いますか? これは「ノギリエイ」です。長い鼻にのぎりの歯のようなものがついている、まるでチェーンソーのようです。長さは一メートルくらいになるものもあって、これを振り回して餌になる魚などを切って食べます。さらに、ここから弱い電気を出して、海底にある餌を探すことにも使えます。すげえですね。

他にも「ミスカキヤモリ」「ジンメンカメムシ」(実際のページを見せる)見てください! 人の顔に見えて、しかたがありません! 次はトムさんが、私たち人間の心の不思議に迫る本を紹介します。



二冊め:村上哲哉『人間のふじげな世界』

動物にも不思議なところがたくさんあるけど、動物から見ると、私たち人間も不思議な満載がもしもありません。なぜ? どうして? と疑問をもつのは人間だけです。例えば「ぶっいたらやせこくなるの?」「皆さんだったらどう答えますか?」「人間のふじげな世界?」「ぶっいたら?」には、ほかに聞いてみたいけどなかなか聞けない疑問とそのヒントが詰まっています。

次はリンさんが、ちょっと不思議な絵本を紹介します。





三冊め：アン・ジョナス著『光の旅かげの旅』

私が紹介するのは『光の旅かげの旅』という絵本です。物語は、夜が明けきらない早朝から始まります。(絵本をめくりながら) 車で農場を通り過ぎ、海岸を抜け、街なかに入り、やがて夜がふけていきます。(最後のページで)「本をさかさまにしてごらん！」そうなんです、ここから新たな「かげの旅」が始まります。

この不思議な絵本はしかけ絵本と言います。不思議な光と影のトリックを楽しんでみてください。

最後にナツさんが、魔女の魔法によっておばあさんに変身させられてしまう女の子のお話を紹介します。



四冊め：アレックス・シアラー著『13カ月と13週と13日と満月の夜』

おばあさんになったのは十二歳の女の子、カーリー。同じく魔女に体を奪われたメレディスと協力して、魔女から自分の体を取り戻そうとするのですが、……どうしたらもとの姿に戻れるのでしょうか？ ヒントはこの本のタイトル『13カ月と13週と13日と満月の夜』にあります。

結びの言葉

(紹介した本を順番に見せながら) 今日是不思議な生き物、人の不思議な心のお話、不思議なしかけ絵本、魔女の不思議な魔法でおばあさんに変身させられてしまう女の子のお話を紹介しました。

私たちの知らない「不思議」な世界はまだたくさんあります。図書館の本の中から、誰も見つけたことのない「不思議」を探してみるのもよいのではないしょうか。これで私たちのブックトークを終わります。

